

## 第6回 新県民体育館整備等基本計画検討会 次第

日時：令和8年2月17日（火）10:00～12:00

場所：高知会館3階「飛鳥」

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 検討会のスケジュールについて
- (2) 前回（第5回）の宿題返し
  - ・各委員の主な意見と事務局の回答
- (3) 新県民体育館の整備の考え方・基本方針
- (4) 基本計画の位置付け
- (5) 施設計画（基本要件、機能及び諸要件、モデルプラン）

### 3 その他

- ・地下駐車場における防災対策

### 4 閉会

## 第6回 新県民体育館整備等基本計画検討会 委員一覧

(五十音順)

【 委 員 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	刈谷 好孝	公益財団法人高知県スポーツ協会 専務理事	競技スポーツ	○	
2	寛藤 次男	高知県柔道協会 会長	武道	○	
3	坂本 淳	高知大学教育研究部自然科学系理工学部門 講師	防災	○	
4	高岡 幸史	高知市文化観光スポーツ部 部長	自治体 (文化・観光・スポーツ)	○	
5	玉乃井 欣樹	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 理事	コンサート	○	
6	久川 俊秀	高知市文化プラザかるぽと 館長	文化	○	
7	古谷 純代	高知商工会議所 副会頭	商工	○	
8	前田 和範	高知工科大学経済・マネジメント学群 講師	スポーツマネジメント (アリーナ、Bリーグ)	○	
9	丸 朋子	大阪成蹊大学経営学部スポーツマネジメント学科 講師	スポーツビジネス・産業 (エンターテインメント)	○	
10	森 恒一郎	土佐経済同友会 観光推進委員会委員長	観光	○	
11	渡邊 英孝	高知県立障害者スポーツセンター 所長	障害者スポーツ	○	

【 アドバイザー 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	原田 宗彦	学校法人浪商学園 理事・大阪体育大学学事顧問	スポーツマネジメント	×	



令和 8 年

2 月

3 月

4 月

5 月

## 基本計画 検討会

第6回  
(2/17)

第7回  
(3/24)

検討会の拡充（再編成）

第8回

第9回

第10回

第11回

## 検討事項

- ①今後のスケジュール
- ②基本計画の位置付け
- ③整備の考え方・基本方針
- ④施設計画（基本要件、機能及び諸条件、モデルプラン）
- ⑤地下駐車場

- ①施設計画（基本要件、機能及び諸条件、モデルプラン）
- ②サウンディング再調査（中間報告）
- ③収支の見通し
- ④ちばさんセンター大ホールの集約化のメリット・デメリット

- ①整備・運営手法（DB+指定管理、PFIなど）
- ②財源（公適債）
- ③地域防災
- ④賑わいづくり

- ①基本計画（案）のまとめ

パブリックコメント（約1ヶ月）

- ①基本計画（案）のまとめ
- ②パブリックコメント（検討会にて意見等の報告）

<予備>

基本計画の策定

## 県の 主な取組

事業手法

「PFI導入可能性調査」  
サウンディング調査（2回目）・VFM試算  
※対象は1回目のサウンディング調査対象の  
建設・設計・運営企業

庁内検討

事業手法の決定

設計の  
フェーズへ

財源・  
収益

民間資金の活用の可能性、公適債の活用、  
収支見通しの精査

まちづくり  
・防災

まちづくりワークショップ（第1回）  
※若者、地域住民、競技団体、観光・商工関係者、自治体関係者など

まちづくりワークショップ（第2回）

県が策定

ちばさんC

ちばさんセンター大ホールの  
集約化検討

ちばさんセンター大ホールの集約化議論を加速化

土地貸借

土地使用貸借契約の締結に向けた協議（高知市）

「第5回新県民体育館整備等基本計画検討会」における主な意見と事務局の回答

資料2

No.	項目	委員等からの意見	事務局の回答
1	建設地・まちづくり	整備案は中途半端に感じる。実際、四国内でも同じ5,000席のアリーナは松山市も計画を進めており、高松市に10,000席のアリーナがある。見るスポーツにおいても5,000席はどうかという話もある。何をどこに持っていくというところをもう一度整理して、議論を積み直す方向が良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画は、次の段階である基本設計の仕様書や要件付けとなる計画であり、検討会では設計に向けて県として決めておくべき内容について、各分野の専門家である委員から意見をお聞きする場と認識。</li> <li>・第5回の検討会では、現有地での整備案で検討を進めてほしいとの意見が多かったと認識している。整備案の改善点や懸念事項について検討会で意見をいただきたい。</li> <li>・施設の動線や搬出入口、ゾーニング等については【資料5】のとおりモデルプランを作成しており、これまで議論してきた整備内容が敷地の中に収まることを確認している。</li> <li>・【資料5】の施設計画に盛り込む内容が設計段階の仕様書あるいは要求水準書のベースとなるため、施設計画に盛り込む内容の過不足などについて意見をいただきたい。</li> <li>・アリーナを中心としたまちづくり、賑わいづくりといったテーマで住民参加型のワークショップを行う予定。</li> </ul>
2		まちづくりの視点において現有地は賛成。ただ一方で、集約化の議論が何件も積み重なっていることが、この議論の難しさだと捉えている。	
3		現有地でまずは計画を進め、どうしていくかという議論をしないと前に進まない。現有地でまちづくりをどのような形でやり、そのためにはどのようなものを建てたら良いかを決めていくべき。	
4		集約することによっていろんなハードルが増え、前に進んでいない印象。武道館に関しては従前より大きくはなっていないので、新たに武道館ができたとしても、武道が注目を浴びるとは思わないが、高知らしさというところではコンパクトな計画に賛成している。ひとまず建設地を固めないとは進まない。	
5	まちづくり管理運営	現有地は徒歩20分で約1.5km圏内であり十分歩ける距離。ウォークアブルシティを念頭に置くならば場所として悪くない。はりまや橋と現有地の間に、プロムナードのような開発ができれば、まちづくりの視点として興味深い。	はりまや橋付近の中心市街地から徒歩20分圏内の立地を活かしたまちづくりをテーマに、若者や地域住民、商工・観光関係者などとワークショップを開催することを検討中。中心市街地から新県民体育館までの沿道のにぎわいづくりなどについてもアイデア出しを行ってきたい。
6	まちづくり	都市によっていろんな課題がそれぞれある。人口構成も違い、同じ施設を整備するのではなく、都市ごとの課題を改善するような整備が必要。高知市、高知県らしい施設を目指す議論を。配置等ではプールについていろんな意見があるのも承知しており、市も県の計画を評価して推進したことも踏まえた議論してほしい。	高知県の財政規模を踏まえ、社会体育施設を含む複合型のアリーナを目指していく。VIP席やセンターハングビジョンなどは後から増設や調達をするなど、スモールスタートから将来的に変容・成長するアリーナとしたい。
7	整備案	コンパクトな敷地に機能を詰め込みすぎており、アリーナとプール、武道場等の関係で運営方法に懸念。施設を分離して経営を行う等の方法もあると思う。屋上部分においてもスポーツ施設を整備することが可能。立体的な開発を視点に入れた計画が必要になる。	プールとサブアリーナを物理的に分離し、管理運営を別施設として取り扱う運営方法も一つの選択肢だと考えている。屋上部分には人工芝等の運動や活動ができるスペースを設ける方針であり、さらに設計段階で事業者から提案を受けられる仕様としたい。
8	駐車場	大規模な投資をして地下駐車場を整備したとしても、地震や津波の際、全く機能しなくなる可能性がある。駐車場対策としては、南中高に建設すると良いのではと考える。	地下駐車場の整備に関して津波や内水氾濫への対応策は別添【資料6】のとおり考えられる。旧高知南中高の敷地は、中心市街地からやや離れており、アリーナと中心市街地の一体的な賑わいづくりが難しいことや、現在グラウンドやテニスコートを一般のスポーツ利用を目的として貸し出し、校舎の一部は生物標本の保管場所として使用する方針が決まっていることなどから、新県民体育館（アリーナ）は現有地が適地と判断している。
9	駐車場防災	災害のときの避難において、地下駐車場は心配。	地下駐車場の防災対策については別添【資料6】の対応策が考えられる。設計において、適切な避難ルートの確保や防災機能の向上に向けて整理していく。
10	ざばさん集約化	ざばさんセンターを集約化することで、ざばさんセンターが今の場所になくなることのデメリットはこちらではなかなか判断つきかねる。集約化のメリット・デメリットを整理したものが共有できれば良い。	ざばさんセンター大ホール等のあり方検討会において、ざばさんセンター大ホールの機能を新県民体育館に集約化することのざばさんセンター側のメリット・デメリットを整理し示す予定と聞いており、その結果を本検討会において共有する。
11	倉庫・器具庫	現代のアリーナは、かなり広く貯蔵スペースを確保しているところが多い。想像以上にフロア以外の倉庫機能が重要であり、他県の事例を参考にし検討してもらいたい。	現県民体育館の器具庫の面積や収納状況を踏まえ、他県のアリーナの情報を参考とし、新県民体育館に必要な倉庫の面積やスポーツ器具を精査していく。
12	管理運営	建物をつくることだけでなく、先の運営までを見据えた議論の展開を。	従来工法に加え、設計・施工・運営管理を組み合わせ一括発注する方式、PFIによる方式など、適切な整備・運営方法のあり方について、専門家や民間企業の意見を踏まえて決めていく。
13	利用調整	年間約50週ある中で、Bリーグの試合が約60ゲーム。ホーム&アウェイで30ゲームなので、週末15週をまずBリーグが使用すると残りの35週をコンサートやその他のイベントで調整することになる。展示会などのMICEも週末の開催が多いと思うので、予約の取り合いが懸念される。	第3回基本計画検討会で示した利用日数のシミュレーションでは、既存の競技大会を主にサブアリーナで開催することにより、メインアリーナではプロスポーツの試合やコンサート、展示会等のMICEを開催する日数の余裕は一定あるものと見込んでいる。予約の受付方は、催事の規模により、例えば3年前から受け付けるもの、1年前から受け付けるものなど棲み分けをする方法が考えられる。
14	透明性	透明性を持ったオープンな議論を心がけていただきたい。	基本計画に盛り込む内容について、検討会において意見をいただくために必要な情報を可能な限り提示し、検討や議論の結果は公表していく。
15	アンケート	アンケート調査はその運用をどうするかが非常に重要。アンケート調査の結果や割合、ポジティブな意見やネガティブな意見の全てに捉われず、柔軟により県民が使いやすい施設にするにはどうすればいいかといった運用方法をぜひ検討を。調査の使い方と結果をうまく活用いただきたい。	アンケート調査の結果やいただいた意見を今後の整備や運用に生かしていく。また、ご意見のとおり、アンケート結果に縛られることなく、高知県らしさや使われやすい施設となることを模索していく。

<県立スポーツ施設あり方検討会（令和6年度）>

・必要なフロア面積を確保するとともに、大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能なアリーナ機能を整備すること

スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設

基本方針

- (1) まちづくりの拠点 まちづくりやコミュニティの形成のハブ
- (2) スポーツ振興の拠点 県民のニーズに合ったスポーツを「する」施設
- (3) にぎわいの拠点 スポーツを「みる」という文化の定着
- (4) 安心・安全な拠点 ユニバーサルデザイン、一時避難が可能な施設

敷地・施設規模

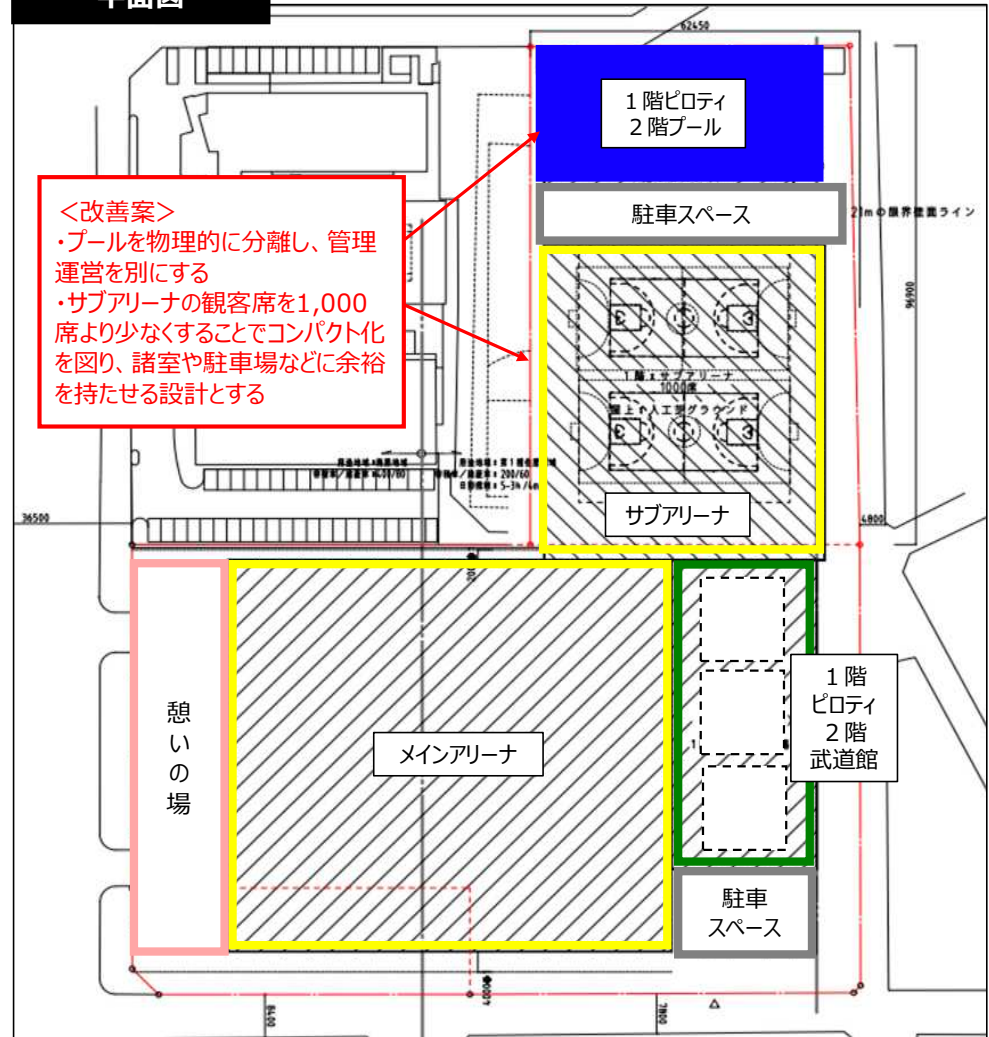
**【敷地】** ※施設規模は現時点の想定であり、今後の検討で変更の可能性あり  
 現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）  
**【主な施設規模】** ※延床面積約17,500㎡（ピロティ、地下駐車場除く）  
 メインアリーナ：観客席5,000席以上  
 サブアリーナ：バスケットコート2面＋観客席1,000席程度  
 武道館：試合場3面  
 プール：25m×8コース程度（うち1コースはスロープ）  
 駐車場：250台以上（地下駐車場の選択肢を含む）

特徴・ポイント

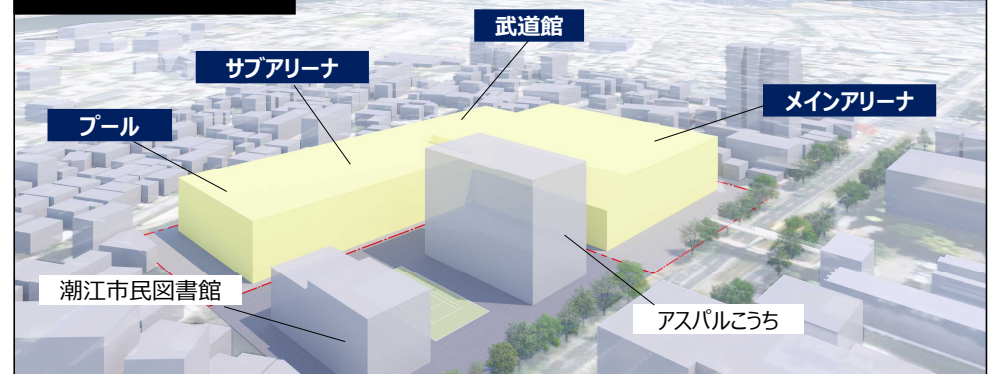
- メインアリーナはプロスポーツの試合やコンサート、展示会等のMICEなどに対応する規模、機能とする
- サブアリーナは競技大会の開催に必要な規模を確保。屋上には運動や活動ができる人工芝等のスペースを設置
- プールは障害のある方の利用、将来的な学校の水泳授業の受けこみを想定し、「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」を設置
- 駐車場は、武道館やコンベンションホール機能も備えることから、現状の台数（82台）から大幅に増やす
- 憩いのスペースは電車通り沿いのメインアリーナ正面前に配置

平面図

※下記の構成施設の配置（並び）は確定したものではありません。



立体図（イメージ）



- ・施設整備における基本計画の位置付けは、次の段階である**基本設計の仕様書、要件付け**となる計画
- ・基本計画検討会では、設計に向け**県として決めておくべき内容**について、専門家である委員から意見をいただく
- ・設計段階での事業者の提案余地を残すため、**配置案や諸室、動線等の詳細の決定までは不要**

あり方検討

基本計画

基本設計

詳細設計

建設工事～供用開始

検討  
内容

施設整備必要性についての合意形成を図る等、その実現に向けて、施設の基本理念や基本方針を定め、候補地の選定や求められる機能・規模について、基本計画において検討すべき項目の洗い出しを行うもの。

施設の設計や建設を進めていくための根幹となる計画という位置づけであり、ステークホルダーのニーズ等を踏まえながら、必要な諸室や今後の設計検討に留意すべきその要件（目安となる方向性）を洗い出し、施設に導入する諸室のゾーニング図（間取りは仮設定）を作成するもの。

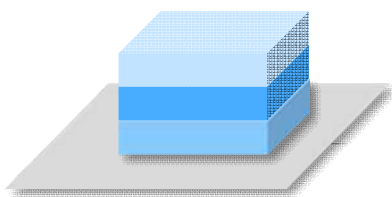
施設の配置や動線計画、備えるべき機能や設備を図面に取りまとめ、施設の具体的なイメージを明確にするもの。

基本設計に基づき、建設工事を行うための、仕様や規格、デザインを検討し、工事費の具体的な積算を行うもの。

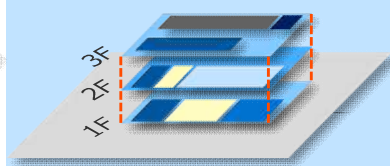
詳細設計図面に基づき、施工図面を作成し、建設工事を行うもの。

作成  
イメージ

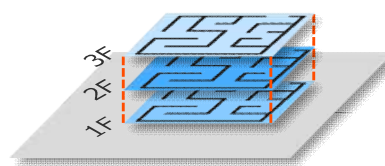
候補地を決定し、概略の施設規模を設定する。



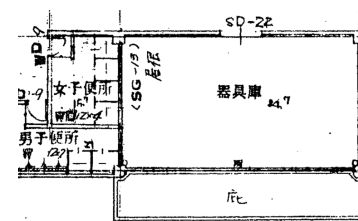
必要な諸室整理を踏まえ、標準的な規模に基づき、間取りを仮設定する。



各諸室の具体的な間取りを設定する。



各諸室の具体的な寸法や仕様を設定する。



決める  
べき事項

【例：器具庫】  
具体的な諸室には言及しないが、現状の課題を把握し、必要な諸室機能を整理する。

【例：器具庫】  
どのような利用用途に対応できる器具庫にするか等の設計検討の参考となる考え方を整理する。

【例：器具庫】  
各フロア導入する箇所数や動線計画等を踏まえた大まかなレイアウト、必要な設備の考え方を整理する。

【例：器具庫】  
導入する備品倉庫ごとに配置や床面積、設備の仕様・数量を決定する。

【例：器具庫】  
設計図面どおりに施工されているか確認を行う。

高知県が目指す「**スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設**」を実現するにあたり、想定する基本要件、機能及び諸条件を示す。施設全体としては、メインアリーナ、サブアリーナ、武道館、プールの複合施設として整備する。

**(1) 基本要件** ※以下に示す基本要件や機能、諸要件は原則として設定するものであり、設計や施工段階で修正の必要が生じた場合は、変更する可能性がある。

施設全体の基本要件は以下とし、次ページ以降の機能及び諸条件を満たす計画とする。

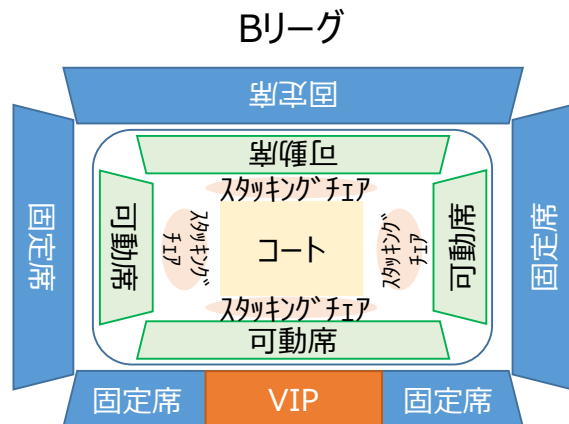
項目	基本要件
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設とする。</b></li> <li>• <b>全国規模の競技大会の開催が可能な計画とする。</b></li> <li>• <b>メインアリーナはBリーグネクスト、Vリーグの施設要綱を満たした計画とする。</b></li> <li>• <b>音楽コンサートや多様なイベント等の興行利用が可能な計画とする。</b></li> <li>• <b>各種展示会等のMICE（高知ちばさんセンター大ホールで行っている展示会等を開催できる水準以上）対応を可能とする。</b></li> <li>• <b>多様な利用に即し、設営・撤去がしやすい計画とする。</b></li> <li>• <b>将来のVIP席の整備等の増改築や利用ニーズに合わせた施設・設備更新がしやすい計画とする。</b></li> <li>• <b>来館者が屋外でくつろぐことができ、イベント時などはキッチンカーを置くことができる「憩いの場」を設ける。</b></li> </ul>
施設規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>延床面積17,000～最大19,000 m<sup>2</sup>とする。</b>（ピロティ及び地下駐車場の面積を除く。）</li> <li>• <b>興行日だけでなく、非興行日の多様な施設利用者による来場者混雑の緩和を考慮した施設計画とする。</b></li> <li>• <b>駐車台数は250台以上を整備する。</b></li> </ul>
環境性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>アリーナ整備による敷地周辺への日照、日影、騒音、車交通の安全等の影響に配慮した計画とする。</b></li> <li>• <b>省エネ性能を高め、環境に配慮した整備を行う。</b></li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>隣接する高知市教育施設（アスパルこうち）に通う児童・生徒に配慮した計画とする。</b></li> <li>• <b>メインアリーナの興行日においても、サブアリーナやプール、武道場等は一般利用者が利用できるゾーニングや動線計画とする。</b></li> <li>• <b>コンコースや後部座席背後の通路の幅を広くとり、屋内ランニングコースや幅広い通路を活かした興行時の仮設売店スペースや非常時における一時避難用の滞留スペース等、多様な利用が可能な空間とする。</b></li> <li>• <b>ユニバーサルデザイン及び安全性、快適性、環境へ配慮した計画とする。</b></li> </ul>

# 施設計画

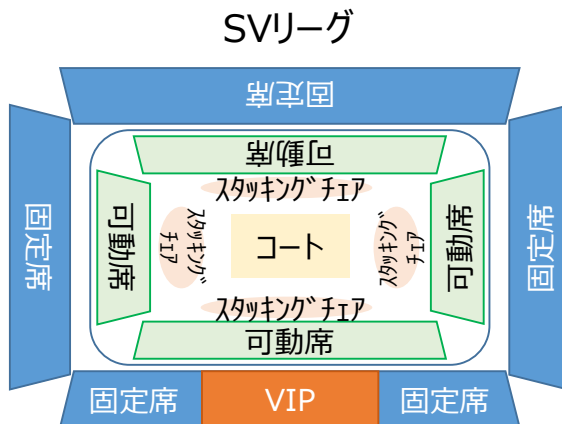
## (1) 基本要件

スポーツ興行時の座席数は、**5,000席以上とする。**

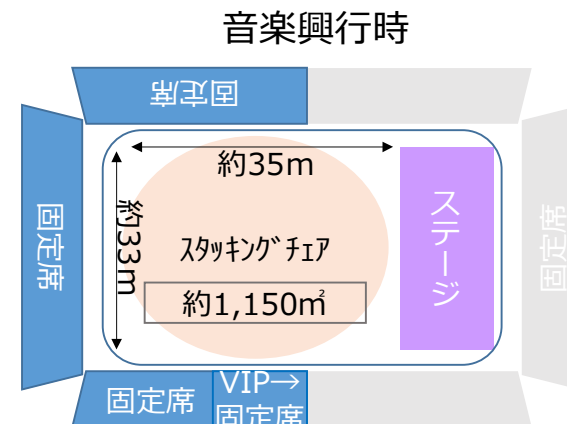
音楽興行時における座席数は、ステージ形状によって収容形式が変化する可能性があるが、概ね**3,500席以上とする。**



VIP (来賓) 席	: 150 席
固定席	: 2,700 席
可動席★1	: 1,900 席
仮設席	: 200 席
その他★2	: 50 席
<b>合計</b>	<b>: 5,000 席</b>



VIP (来賓) 席	: 150 席
固定席	: 2,700 席
可動席★1	: 1,900 席
仮設席	: 200 席
その他★2	: 50 席
<b>合計</b>	<b>: 5,000 席</b>



VIP (来賓) 席	: 50 席★3
固定席	: 1,200 席
可動席★1	: 0 席
仮設席	: 2,300 席★4
その他★2	: 50 席
<b>合計</b>	<b>: 3,600 席</b>

- ★1 可動席とは壁面収納できるロールバックチェア等を想定
- ★2 立見・車いす席、企画席 等
- ★3 各種スポーツ大会等ではVIP席であるが、コンサート時には、固定席の1種として利用。
- ★4 高知市火災予防条例により、0.5㎡/人として整理。

## (2) 機能および諸条件

それぞれの機能に必要な諸室とその概要を整理する。

BリーグネクストやVリーグの各種施設要綱及び関連法規を遵守したうえで、これらの機能を有するアリーナとする。

### 1) 施設機能

主要諸室	項目	内容
①メインアリーナ	サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスケットコート3面を確保し、全国高等学校総合体育大会等の公式試合が開催できる広さとする。</li> <li>プロバスケットボール（Bリーグネクスト）及びプロバレーボール（Vリーグ）が開催できる広さを計画する。</li> <li>音楽コンサート等の興行（3,500人規模の会場で開催されるツアー等）利用を想定する。</li> <li>音楽コンサート等の興行や、展示会等のMICEにおいて、さまざまなステージ形態への対応を可能とする。</li> </ul>
	床仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート床とし、バスケットボールやバレーボールの試合時には競技に対応した仮設床を設置する。</li> <li>大型トラック（11 t 車）の乗り入れを可能とする。</li> <li>さまざまなイベントや展示会の開催、ステージセットの設置を考慮した床荷重とする。</li> </ul>
	天井吊もの	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターハングビジョンや、音楽興行時にエンドステージ、センターステージ、サイドステージの設置に対応した吊ものを可能な計画とする。</li> <li>イベント設営時に天井面の作業ができるよう、天井部にキャットウォークを整備する。</li> </ul>
	観客席	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>プロスポーツ興行時は5,000席以上、音楽等の興行時は3,500席以上確保する。</b></li> <li><b>将来的に増改築等により、BリーグプレミアやSVリーグの施設要綱を満たせるよう、VIP席やVIPラウンジ等を整備できる余地を考慮した計画にする。</b></li> <li>車いす対応等のさまざまな観客席を設ける。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>アリーナに直接搬出入するトラック動線や作業ヤードを設ける。</b></li> <li>イベント設営用の備品やスポーツ用具等を収納する倉庫を計画する。</li> <li>仮設床やアリーナで使用する備品等を収納できるよう、<b>十分な広さの倉庫や器具庫を整備する。</b></li> <li>大型トラックがメインアリーナ内に進入できる<b>搬出入口を2か所以上設ける。</b></li> </ul>

## (2) 機能および諸条件

### 1) 施設機能

主要諸室	項目	内容
②サブアリーナ	サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスケットコート2面を確保し、全国高等学校総合体育大会等の公式試合が開催できる広さとする。</li> <li>バレーボール利用に支障のない天井高さ13mとする。</li> </ul>
	床仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>フローリングなど、常時スポーツ利用を目的とした床仕様とする。</li> <li>イベント時の物販利用などの対応も考慮する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技大会や一般のスポーツ活動を行う者の利用を中心とする。</li> <li>プロスポーツチームの練習利用や音楽等の興行時の物販エリアとしての利用を考慮する。</li> <li>サブアリーナ利用者が使用するトイレや更衣室等の諸室を設ける。</li> <li>観覧席を<b>500席以上（1,000席程度が理想）</b>（固定席、車いす席を含む）整備する。</li> <li>サブアリーナで使用するスポーツ用具等を収納できる倉庫や器具庫を整備する。</li> <li>武道の大会等で試合場を4面以上使う場合は、サブアリーナで大会を開催することも想定した倉庫を整備する。</li> <li>屋上に人工芝等の運動や活動ができるスペースを整備する（アスパルこうちグラウンドの代替機能）。</li> </ul>

## (2) 機能および諸条件

### 1) 施設機能

主要諸室	項目	内容
③ 武道場	サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>剣道及び柔道の公式試合場を3面設ける広さとする。</li> </ul>
	床仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>フローリングなど、常時スポーツ利用を目的とした床仕様とする。柔道の利用時は畳等を敷設使用することを想定する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道場利用者が使用するトイレや更衣室等の諸室を設ける。</li> <li>柔道利用時の畳等や試合用具等を保管する器具庫を整備する。</li> <li>大会利用も想定し、観覧席（300席以上）、本部席及び審判席のスペースを設ける。</li> </ul>
④ プール	サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>25m×6～8レーン整備し、そのうち1レーンは障害者利用ができるスロープ入水用として整備する。</li> <li>プールの幅、水深等は現在の県民体育館プールと同程度のものを整備する。</li> <li>プールサイドの幅は、利用者の休憩や通行に支障がない幅を確保する。</li> </ul>
	床仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>床及びプール槽は、適切な機能性（防滑性、耐久性、耐水性、防カビ性、耐衝撃性等）を有し、かつ、メンテナンス性等の経済性にも配慮したものとする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>プール利用者が使用するトイレや更衣室等の諸室を設ける。</li> <li>更衣室は、障害者と介助者（家族）が一緒に入れる個室も設ける。</li> </ul>

## (2) 機能および諸条件

### 2) 観覧機能 (メインアリーナ)

主要諸室	項目	内容
①一般席	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Bリーグネクスト及びVリーグの各基準を満たし、メディア席を除き、<b>5,000席以上</b>を確保する。</li> <li>• 音楽等の興行時は一般的なステージ形状（センターステージ、エンドステージ等）で、着座で<b>3,500人以上</b>を確保する。</li> <li>• 来場者のニーズに応じた更新がしやすいよう、可変性を持たせた計画とする。</li> <li>• 歩行者が視線障害とならないような通路計画とする。</li> <li>• 車いす対応等のさまざまな観客席を設ける。</li> </ul>
	固定席 可動席	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 固定席を2,700～3,000席程度計画する。</li> <li>• 可動席は、ロールバック方式や可動スタンド方式等を計画する。</li> </ul>
	仮設席 (スタッキングチェア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ興行時における仮設席数は、全観覧席数の<b>5%以内</b>とする。</li> <li>• アリーナフロアに設ける。</li> <li>• 音楽興行時には来場者数に応じて仮設席を設ける。</li> </ul>
	車いす席	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プロスポーツの興行に必要な座席数を確保する。</li> <li>• 車いす利用者がさまざまな場所からイベントを楽しめるような計画とする。</li> </ul>

## (2) 機能および諸条件

### 3) VIP機能（メインアリーナ）

主要諸室	項目	内容
②VIP席	個室（VIP席） ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に増改築等により、BリーグプレミアやSVリーグの施設要綱を満たせるよう、VIP席やVIPラウンジ等を整備できるようにする。</li> <li>エレベーターがあらかじめ着床できるようにする等、将来的な増改築により、飲食提供ができるような設えとする。</li> <li>将来的な増改築等により、ラウンジは個室（VIP席）に近接して設けられるようにすること。</li> </ul>
	エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来のVIP対応に向けて、あらかじめ、VIP用駐車場、車寄せの位置や歩行者動線を考慮した計画とする。</li> <li>VIP観客動線は、一般観客動線から独立して計画する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来のVIP対応に向けて、あらかじめ、個室（VIP席）やラウンジ席への飲食提供のためのパントリーを整備できるスペースの確保や外部からの飲食物の搬入を考慮して計画する。</li> <li>ホスピタリティエリアへのサービス提供を行うスタッフ用の控室を適宜設ける。</li> </ul>

## (2) 機能および諸条件

### 4) メディア関連機能

- メディア控室や実況放送室、AV機器の操作室、ミックスゾーンや記者会見室、中継車置場等を設ける。
- 中継車用アンテナ設備を中継車置場の近くに整備する。
- メディアの動線は、観客の動線や選手の動線と確実に分離する。
- スタンド内にメディア席を設ける。メディア席は座席としてカウントしないものとする。

### 5) アリーナ関連設備

- スピーチや司会進行等ができるレベル以上の音響設備を設ける。
- 将来的にBリーグプレミア及びSVリーグの施設要綱を満たせるよう、あらかじめ、アリーナ内にセンターハングビジョンやスピーカー等、試合時の臨場感を演出するような大型映像・音響設備の整備ができる設えとする。
- 高密度Wi-Fi等、観客の通信環境を向上させる設備を導入する。

### 6) 施設管理機能

- 清掃員控え室、警備室、施設スタッフ用更衣室、倉庫等を適宜設ける。

### 7) 防災機能

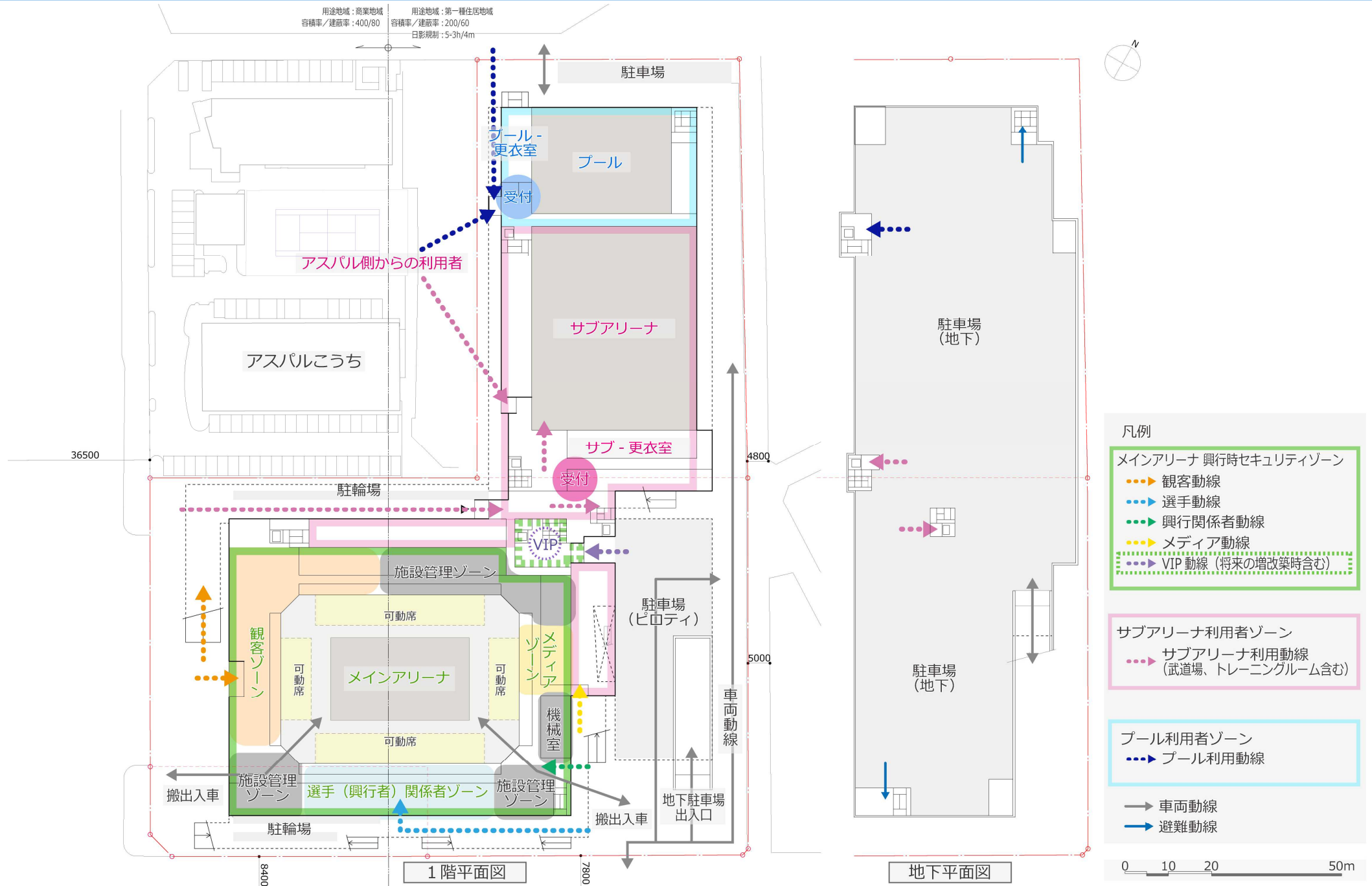
- 施設利用者や地域住民が避難する「指定緊急避難場所」と「指定一般避難所」に対応する計画とする。
- 「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」においても、これらのハザードを対象とした緊急避難場所の指定を見据えた規模・構造とする。
- 津波避難ビル指定に際し、第3次高知市備蓄計画に基づく資機材の保管スペースをメインアリーナ等の2階以上に確保する。
- 指定避難所の収容人数及び居住スペースとして可能なエリア・範囲を考慮した設計。
- 収容可能人数に応じた備蓄庫を設ける。
- 電気やガス、通信（Wi-Fi、電話）等のインフラについて耐災害性に配慮する。（例：太陽光発電・蓄電池、空調設備の熱源をプロパンガスや、都市ガスとプロパンガスの併用にするなど）
- 避難所としての良好な生活環境の提供を念頭に、発災後にも活用可能な調理設備や入力設備等の整備を検討する。
- 地下駐車場を整備する場合は、止水板や排水ポンプ設備の設置など適切な浸水対策を講じる計画とする。

# アリーナイメージ (モデルプラン) (B1-1階)

※当該モデルプランは、基本計画で検討・議論している内容が実現可能か検証するための図案であり、施設の平面図等を下記のとおり決めるものではありません。

用途地域：商業地域  
容積率/建蔽率：400/80

用途地域：第一種住居地域  
容積率/建蔽率：200/60  
日影規制：5-3h/4m





# 地下駐車場の防災対策

## (1) 地下駐車場の災害対策例

### ① 浸水 (対策)

#### 施設整備

- ・ 止水板・防水板の設置 : 建物出入口、入出庫口に防水板や止水シャッターを設置し、水の浸入を防ぐ
- ・ 排水ポンプ等設備の設置 : 適切な能力の排水ポンプ等を設置し、定期的に稼働点検を行う
- ・ 水位センサーの設置 : 異常な水位上昇を早期に検知するシステムの導入により、迅速な初動対応を可能とし、被害の最小化を図る

#### 運営

- ・ 車両の避難計画 : 大雨警報時に車両を地上へ移動させる避難誘導計画を定める
- ・ 止水設備、排水設備の保守 : 定期的に稼働点検を行うなど、適切な保守を行う
- ・ 土のうの備蓄 : 入口付近に土のうを常備する

### ② 火災 (対策)

#### 施設整備

- ・ 防災設備の設置 : 消化設備、排煙・換気設備や避難誘導設備などの防災設備を適切に設置する。

#### 運営

- ・ 誘導避難計画 : 火災時に駐車場利用者を地上へ移動させる避難誘導計画を定める
- ・ 防災設備の保守 : 防災設備の保守点検を確実にを行う

## (2) 地下駐車場の復旧手順

#### 運営

被災後は、安全確保を最優先に進める (※浸水を想定)

- ・ 安全確保と立ち入り制限 : 構造物の安全確認 (天井の落下、壁の亀裂など) ができるまで、利用者の立ち入りを禁止する
- ・ 停電・漏電の確認 : 電気系統が水に濡れている場合、感電の危険があるため、電気技術者による確認まで通電しない
- ・ 排水作業 : 浸水した場合、排水ポンプやバキューム車を用いて水を排出する
- ・ 清掃・汚泥除去 : 浸水が引いた後、汚泥やゴミの除去、高圧洗浄を行う
- ・ 設備点検・交換 : ア) 電気設備\_\_漏電ブレーカー、配線、エレベーター、照明などの点検・交換  
イ) 機械設備\_\_自動駐車設備がある場合、モーターやセンサーの動作確認・修理  
ウ) 浸水した消火設備\_\_火災報知器の機能チェック
- ・ 構造チェック : コンクリートの強度やひび割れを確認する

## （１）災害等の事実経過

### ①気象状況

- ・ 10分間降雨 : 12～15mm（22:10～22:50）
- ・ 1時間降雨 : **123.5mm**（21:14～22:14）（過去観測史上最大降雨量）  
（これまでの最大の1時間降雨量：105mm）

### ②浸水状況

- ・ 歩行者用出入口7か所、車両用出入口3か所、地下横断歩道連絡口2か所、エレベーター2か所、近隣の工事作業用通路1か所の計15か所から浸水
- ・ 浸水開始時間：22:20頃（22:30頃には地下1階東出入口精算書付近で水深約15cm）

### ③環境対応等

- ・ 当該時間帯の人員数 : 2名
- ・ 情報認知 : 大雨警報\_\_21:53発表、記録的短時間大雨情報\_\_22:08発表（スタッフ2名は**22:40**に認知）
- ・ 浸水対応 : 22:00頃 地下横断歩道出入口付近の地上部で冠水が無いことを確認  
中央監視室（地下1階部）のモニターで駐車場内の状況監視を実施  
22:20頃 中央監視室前から浸水を目視で確認 → 中央監視室への浸水防止のため土のうを設置  
22:30頃 避難のため出庫する車両用に料金精算機のゲートバーを開放（同時間、別職員合流）  
23:00頃 地下1階水位が腰付近まで達したため、危険と判断し、駐車場から避難

### ④浸水対応

- ・ 各出入口（車両用、歩行者用）は止水板により浸水を防止する計画であるが、いずれの出入口も、急激な浸水のため、止水板を設置する時間的余裕なし。
- ・ 国道側駐車場の車両出入口については、止水板が故障中（R3.12～）

### ⑤止水板設置の所要時間の検証（四日市市地下駐車場施設復旧検討委員会による検証）

- ・ 運搬、設置、移動にかかる所要時間：合計約2時間程度（実際は荒天であるため、さらに時間がかかると想定される）

## （２）課題と方向性

### ①当日対応

#### 【課題 1】気象等の情報収集や関係機関への伝達の確実性

- 地下に常駐するスタッフが、地上の気象状況について、**常時自ら情報収集することは困難。**  
→気象情報の速やかな入手体制が整っている本来管理者や地元自治体から**現地へプッシュ型で情報提供を行う体制の構築が必要**
- 地上部や施設内部の冠水や浸水状況を、**駐車場スタッフが目視で確認することには限界がある**  
→**浸水検知システムの配備**を検討
- 刻一刻と変化する現場状況について、駐車場スタッフが電話連絡で多くの関係者に伝達を行うことは非効率  
→リアルタイムに一斉伝達するシステム（電子メール等）の構築が必須

#### 【課題 2】人力による止水板設置の困難性

- **1枚あたり40kg以上の止水板の設置を速やかに行う事の困難性**（避難誘導等の業務と並列）  
→出入口における浸水深を想定し、地下駐車場への急速な浸水を抑制・遅延させるために、**出入口のかさ上げ**など、常時の物理的な対策の実施について検討
- 人力によらず冠水状況に応じて**自動的に止水板が稼働**する技術についての導入

### ②防災計画等

#### 【課題 3】対策までに一定の時間的猶予のある気象等が前提

- 防災業務計画は、台風、ゲリラ豪雨、洪水等を対象としているが、各災害事象の時間的特性に応じた対応についての規定なし  
→短時間での対応が必要となる厳しいケースも想定した上で、各災害事象の時間的特性に応じたタイムラインの策定が必要

#### 【課題 4】駐車場スタッフへの依存性

- 駐車場スタッフが、情報収集・伝達や避難誘導、浸水対策など多くの初動対応を担当  
→運営事業者や本来管理者が初動段階から支援する内容を充実させ明確にするなど、支援体制の強化が必要

## （２）課題と方向性（つづき）

### 【課題５】管理者間の役割分担の明確性

- 運営事業者対応と本来管理者の対応の記載なし  
→本来管理者の対応も含め、初動の役割分担を明確にした計画を策定
- 災害時の駐車場の閉鎖基準が未設定  
→各災害に対応した駐車場の閉鎖基準を設定

### 【課題６】訓練の確実性・実効性

- 止水板の設置も含めた官民連携の訓練を毎年実施することとしているが、未実施あるいは計画通りの内容で実施なし  
→駐車場スタッフは初動時に重要な役割を担う存在であり、計画内容について十分習熟することが重要であるため、定期的な安全教育を実施  
→定期的な点検だけではなく、毎年の訓練にあわせて稼働確認を実施  
→故障リスクを想定した代替措置の準備

### 【課題７】防災施設のメンテナンスの計画

- 止水板の故障について、代替措置を含めた対応なし  
→止水板を含めた防災施設の維持管理に関する役割分担について、より明確化

### 【課題８】その他

- 近隣の工事作業用通路から施工計画書のとおり設置された排水ポンプの能力（50mm/h）を超過する降雨が発生したため、超過雨量により、駐車場に浸水  
→既存の地下施設と接続する工事を行う場合は、浸水対策の強化について、あらかじめ施工業者と駐車場管理者で十分な協議を実施

### （3）施設の復旧と防災力強化の方針（ハード整備）

#### ①先進防災技術の導入

##### ・ 止水板の自動化

- 各種ハザードの想定浸水深を踏まえ、各出入口において、設置や稼働に関わるリスクのない**嵩上げ**を可能な限り行った上で、**高さの不足分**について止水板で対応
- 止水板は水位に応じて自動的に起伏する仕様
- 自動で起伏した止水板に利用者が衝突することを回避するため、車両入口については**監視カメラ**や**エア遮断機**などを設置
- 止水板及び嵩上げにより確保する高さについては、本駐車場出入口の側壁の高さと内水に関する想定浸水深を踏まえて設定

##### ・ 浸水センサーの配備

- 施設内外における浸水リスクや浸水状況を確実に把握し、迅速に対策を講じるとともに応援体制を確保するため、地下駐車場の**地上部及び地下駐車場内に浸水センサーを配備**
- 地上部については、**出入口の標高が低い箇所、過去の冠水実績がある箇所**に設置
- 駐車場内については、各出入口における浸水開始時間等を踏まえ、**浸水が早期に把握できる箇所**に設置

##### ・ 防災情報連携システムの整備

- 駐車場スタッフだけでなく、多くの関係者がリアルタイムに情報を共有できるシステムを導入

##### ・ 排水ポンプ、非常用電源等の強化

- 最新の「路面排水工等に用いる標準降雨強度」に対応する排水能力のある排水ポンプを設置
- 分電盤への浸水を防ぐため、分電盤等のかさ上げや気密性のある分電盤等を設置
- 非常用電源・発動発電機・受変電設備は、地上部などの**浸水影響を受けない箇所への設置**